

信越トレイル苗場山へ延伸 ～人と地域を結ぶ、全長 110km のロングトレイル～

NPO 法人信越トレイルクラブ事務局長 おおにし あつし 大西 宏志

要旨

本格的なロングトレイルづくりを目指した信越トレイルの構想が産声を上げたのが 2000 年。当時は「トレイル」という言葉すら知らない方がほとんどでしたが、今では日本国内に数多くのロングトレイルが様々な目的で整備され、ロングトレイルを目指して歩くハイカーが増えています。構想から 21 年の歳月が経過し、2021 年 9 月に信越トレイルは苗場山まで延伸しました。これまでの活動の経緯と、延伸プロジェクトの概要、今後の展望について紹介させていただきます。

はじめに

日本海から約 30 km、長野と新潟の県境に、標高 1000m 級の山並みが続く せきだ 関田山脈があります。ここは冬には積雪が 8 m を超える世界でも有数の豪雪地帯であり、雪国ならではの特異な自然と文化、そして歴史が育まれた里山です。ブナ林に囲まれ、かつては信越地域の物資や人の往来が盛んで、戦国の歴史にもゆかりがある 13 もの峠道があったそうです。信越トレイルは、この関田山脈の尾根沿いに連なるト

レッキングルートです。国土交通省(当時は建設省)による地域連携に関する調査事業から、新潟と長野の県境の尾根沿いにトレッキングルートをつくる構想が生まれたのが 2000 年。2004 年には NPO 法人信越トレイルクラブが設立され、構想が本格的な取り組みとしてスタートしました。信越トレイルはそのルー



図 1- 信越トレイル全体図

トの多くが国有林内の豊かなブナの森の中に整備されています。2004 年 10 月に、信越トレイルクラブと中部森林管理局北信森林管理署、関東森林管理局上越森林管理署の 3 者による「関田トレイル(信越トレイル)の維持管理に関する協定」が締結され、ボランティアを中心に、自然に大きな負荷を与えない整備が始まりました。また同時に、自然や動植物の調査、周辺住民との合意形成、情報発信、事業者との連携、トレイル維持管理のシステム構築などを経て、2008 年 9 月に斑尾山から まだらおやま 天水山 あまみずやま までの 80 km が開通しました。当時は「トレイル」という言葉そのものに聞きなれない方がほとんどでしたが、あれから 13 年が経過し、国内ではロングトレイルの草分けとして信越トレイルの名前は浸透し、年間 20,000～30,000 人のハイカーが訪れるまでに成長してきました。

ロングトレイルはアメリカ発祥の文化であり、その「道」は山の頂上を目指すためのものではなく、

多種多様な自然や、それらと共生してきた地域の文化や歴史、人々との触れ合いを楽しむための「歩く道」として、登山とは違った魅力に溢れています。信越トレイルクラブの理事であり、バックパッカーで作家の故加藤則芳氏の提唱により、その理念を色濃く受け継いだ信越トレイルは、豊かな関田山脈の自然や豪雪地帯の文化、郷土の食事なども含めた「歩く旅」として楽しむことができるフィールドとして、多くの方々に愛されています。

1 苗場山への延伸プロジェクト

加藤則芳さんは生前、信越トレイルを東は苗場山、白砂山、西は雨飾山、白馬連山までつなげたいという夢を描いていました。その想いに応えるべく、加藤さんが亡くなった翌年(2014年)から、信越トレイルを苗場山まで延伸しようという計画が、事務局を中心に具体的に動き始めました。どこにルートを通すか、地権者は誰なのか、ハイカーにとってこのルートは魅力的なのか？何度も調査を繰り返しては、苗場山までつながる最善のルートを見つけることができず、なかなか本格的な整備に着手することができないまま時は過ぎて行きました。そのような中、2018年、総務省の地域おこし協力隊という制度を活用して、新たなスタッフが3名、事務局に加わることとなりました。その内2名はアメリカのロングトレイルを踏破した経験を持ち、自分がアメリカで地域の方々から受けた様々な恩恵を、信越トレイルに関わることで恩返しをしたいと、熱い想いと志を持って飛び込んできた若者です。彼らが加わったことにより、延伸の計画は一気に進み始めました。2018年8月には、延伸計画を本格的に進めるため、周辺自治体や関係者によって構成される「信越トレイル連絡会」内に、「苗場山延伸部会」を設置しました。部会は、延伸区間にあたる新潟県津南町、長野県栄村の古道や歴史、自然に詳しい有識者、行政担当者、信越トレイルクラブ事務局が中心となって、ルート調査、資源調査、地権者確認、集落ごとの住民説明会等を行いながら、苗場山までの延伸ルートを確認させ、地域との合意形成を図って行きました。ルート確定後は、マップやガイドブックの作成、古道の復元作業、道標の設置作業等を多くのボランティアの方々とともに実施し、2021年9月25日、長年の悲願であった苗場山までの延伸ルート運用開始を迎えることとなりました。



写真1 ボランティアによるトレイル整備

2 延伸区間の見どころ

今回、延伸された区間は、これまでの信越トレイルにはない魅力が多く詰まっています。既設のトレイルは関田山脈のブナ林を抜ける「山のステージ」と呼ぶならば、新設された延伸区間は、苗場山麓の集落と集落を結ぶ「里のステージ」と呼ぶに相応しい区間です。段々に連なる水田を抜ける農道を通り、JR飯山線森宮野原駅舎内を抜け、日本一の信濃川(千曲川)を渡り、信濃川が形成した河岸段丘を登るとそこには一面の水田と苗場山の眺望が目の前に広がります。そこから先はまる



写真2 苗場山と秋山郷の小赤沢集落

で北海道の風景を思わせるような妙法育成牧場の横を延々と歩き、再度、河岸段丘を下ると、秘境と呼ばれる「秋山郷」へと踏み入れることとなります。過酷な豪雪の暮らしと独自の雪国文化が色濃く残る秋山郷には、谷底にわずかにある平地にへばりつくように集落が点在し、今でもマタギ文化が継承される土地です。苗場山や鳥甲山(とりかぶとやま)の噴火によって形成された溶岩台地であり、ユネスコの苗場山麓ジオパークにも登録された地質的にも非常に面白いエリアでもあります。秋山郷の小赤沢集落から標高差 1300m を登り詰めると、そこには信越トレイルのクライマックスに相応しい、一面の高層湿原とお花畑が広がり、天空の苗場山頂へと到達します。

これまではセクションが6区間でしたが、新たに4区間が追加され、全10セクションとなりました。延伸区間約40kmの内、その半分が舗装路となるため、歩きなれていない方にとっては過酷なロード歩きとなりますが、このような要素も全長110kmとなった信越トレイルが本格的なロングトレイルになった証と言えるのではないかと思います。

おわりに

加藤さんの夢である西への延伸計画が次の段階として見えてきました。妙高戸隠連山国立公園では、環境省が主体となり、新たなロングトレイル構想が進んでいます。「雨飾山」「斑尾山」「戸隠山」「妙高山」の頭文字を取り、そのトレイルの名称は「あまとみトレイル」と名付けられ、2021年10月に開通しました。長野駅から戸隠高原を抜け、信越トレイルの起点でもある斑尾山に至る約90kmがつながり、信越トレイルと合わせて歩けば総延長が200kmものロングトレイルとなります。「あまとみトレイル」では、今後は更に雨飾山方面へのルート延伸も計画されており、そこに「信越トレイル」が接続(連携)すれば、西への延伸計画もそう遠くない将来に達成されるのではないかと期待しています。

構想段階から22年の歳月が経過しました。信越トレイルはできるだけ自然に負荷を与えない、「爪でひっかいたような道」づくりを加藤さんは提唱し、重機は使わず、全てがボランティアによる手作業で維持管理がなされてきました。そこには様々な方の想いと汗が詰まっており、この想いと活動を50年、100年と継承していくことが我々の使命であると考えています。信越トレイルが人と地域をつなぐロングトレイルとして多くの方々に愛され、地域に必要とされるトレイルとなるように、皆様とともに歩みを続けていくことができればと思います。



写真3 秋山郷の集落を結ぶ



写真4 信越トレイルのハイライト「苗場」